

ルルドの丘

2019
9月
No.45



社会福祉法人 聖母の騎士会

恵の聖母の家 医療型障害児入所施設・療養介護

児童発達支援センターめぐみ

相談支援事業所こころ

訪問看護あんな



めぐみん

みことば

カトリック司祭
片柳 弘史

“目の前の一人から”

目の前に苦しんでいる人がいて、
わたしたちに何かができるとき
「他にもあなたのように苦しんでいる人が
何万人もいるから」
と言って通り過ぎられるでしょうか。
まず目の前の一人から始めましょう。



きらりん

童謡ボランティアコンサート

♪ゆりかごのうたをカナリヤが歌うよ。ねんねこ、ねんねこ、ねんねこよ♪やさしい母親に抱かれているようなその歌声に会場はシーンと心地よい静けさに包まれました。

6月下旬、梅雨の真っ只中、声楽家の永見彩子さまをお迎えしての童謡コンサートが病棟ホールにて行われました。永見さまはアンサンブル『みどりのそよ風』を22年前に結成して県内外の高齢者施設や、保育施設などで、コンサート活動に励まれている方です。公演では始めに「雨ふり」「カタツムリ」「雨ふりくまのこ」「たなばたさま」など、この時期らしい季節の童謡を歌っていただき、また、松田聖子の「赤いスイートピー」山口百恵の「秋桜」氷川きよしの「きよしのズンドコ節」など利用者さんの好きな曲もリクエストに応じてくれました。伸びやかな明るい歌声に、会場の参加者も楽器をならしたり、手拍子したり、身体を揺らしてリズムをとったり、いつの間にか口ずさんでいたり、目を輝かせていたり、笑みがみられたりと、一人ひとりの表現方法で楽しんでいました。コンサートには入所利用者のご家族にもたくさん参加していただきました。あつという間の一時間。窓の外は少し明るくなり、会場も童謡のメロディーに乗せて虹がかかったようなそんな雰囲気です。このコンサートで歌以外に、皆が一つになる瞬間がありました。それは、コンサートの最後に入所利用者がお礼の言葉を伝える時でした。感謝の気持ちをきちんと伝えたいとの気持ちから、言葉が出るまで、数分の時間が過ぎていきました。この時、それまで声を出していた他の参加者も、水を打ったように静かになり、皆が感謝の言葉を待ちました。永見さまも入所利用者、ご家族、職員も、皆が一つになった瞬間でした。感動をありがとうございました。

ところで、このコンサートのきっかけは、数年前、新聞に載った、一つの記事からでした。その記事には、『みどりのそよ風』として活動している永見さまの紹介が載っていました。職員の一人が、「いつかこの人にコンサートに来てほしい」と思って、新聞を切り抜き、大事にとっていたので。その後、インターネット等で永見さまの活動をより具体的に知ることができ、連絡することにしました。永見さまは申し出を快く引き受けてくれて、打ち合わせの時から明るく、元気に、計画に乗ってくれました。そうして実現したコンサート。人のつながりを感じるコンサートでもありました。これからも、いろいろなところに目を向けて、恵の聖母の家に関係する人たちの喜びとなるよう、計画していきたいと思えます。

保育士 渡辺 春美



<楽しい時間をありがとうございました♪>

巻頭言

施設長 佐藤 圭右

参議院議員選挙が終わりました。い

ろいろと感想もあるでしょうが、泡まつ候補と当初目されていた「れいわ新選組」の当選に驚かれた方も多かったのではないのでしょうか。しかも、実際に当選したのは、山本太郎さんではなく、失礼ながらお名前も知らない、船後靖彦さんと木村英子さんでした。元々は、自由民主党が合区で出馬できない候補者を救済する目的で作った、と言う声もある特定枠を、実際に選挙活動が難しいであろうお二人に割り当てたのは、結果として面白い判断だったと思います。

自分自身は、れいわ新選組の政策は、とても賛同できません。あくまで個人の意見ですが、とても無責任な政策で、実現可能なものがどの程度あるのでしょうか。仮に実現したとして、その莫大な財源をどこに求めるのでしょうか。ましてや、国債をさらに発行して、次の世代に賦課しようなど、理解できるものではありません。

ただし、筋萎縮性側索硬化症（ALS）の船後さんや、脳性麻痺の木村さんを国会に送り込んだのは、とても意味のあることだったのではないでしょ

うか。

まずは、お二人が国会で仕事をするために、国会議事堂をバリアフリー化する工事の必要があったと聞きましただけで、このために少くない税金が投入されることに、違和感を訴える人の意見もニュースで知りました。これは、今までの国会議事堂が、十分なバリアフリー化をしていなかったことの方が問題で、これを契機に、全国でもっとバリアフリーやユニバーサルデザインについて話し合う機会が持てることだけでも、大きな進展だと思えます。ユニバーサルデザインとは、そもそも障がいを持った人たちのためだけでなく、いざれ自分たちも年を取っていき、その時の生活にも役に立つ構造だと思えます。この啓発活動の宣伝を考えると、このような国会議事堂改修のニュースはとても有益であり、改修費以上の広告効果があったのではないかと考えます。

さらに、それ以上に重要に思うのは、これまで、障害者総合支援法など、多くの障がい者施策が国会で審議され、法律も制定されてきましたが、いずれも代弁者である国会議員を通じて

議論されたものでした。その中には、当事者の直接の声が入ってはいませんでした。

今回は違います。船後さんや木村さんが議論の場にいます。当事者の前で、重度訪問介護の意義はどのように説明されるのでしょうか。障がい者の社会参加を、国はどこまで保障していくのでしょうか。

☆

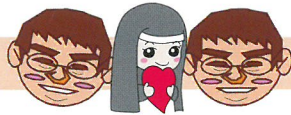
重症心身障がい児(者)(重症児者)は、残念ながら自身の意見を国会で発することはできません。また、医療的ケア児も、子どもであるが故に国会議員にはなれません。そのため、子どもに対しては保護者が、者にあっても多くはご家族がその代弁者となって声を上げてきました。

重症児者の親御さんが、当時、「世の中の役に立たず、社会復帰もできぬ子に金をかける必要があるのか」との声も聞かれる世相の中で「たとえどんなに重い障害があろうと、生命をもち、生きているのです。それなりに生き、育ち、伸びるこの子らを生かして下さい」と訴え、全国重症心身障害児(者)を守る会を昭和三十九年六月に

発足させ、今日に至る(守る会ホームページより)ことはよく知られていますが。その結果、まずは施設の建設から始まり、その後在宅対策へと活動の幅を広げ、今の福祉施策策定の後押しをしていただきました。その当時、お金を出し合い、九州から夜行列車で上京し、厚生省に陳情したというお話もよく伺いました。

今の医療的ケア児については、重症児者のような福祉制度はまだ不十分です。介護の中心は市町村だと言わんばかりに、国は予算をかけずに理念だけを打ち出して、あとは市町村に丸投げという感が否めません。

自分たち施設側が意見を述べても、当事者ではない、と行政のみなさんにはあまり聞く耳を持ってもらえません。医療的ケア児(のご家族)のみなさん、今こそまとまって声を上げるべき時期なのでは、と感じている今日この頃です。



管理課



参議院選挙の意味

事務部長 森 幸一

ご縁があつて恵の聖母の家で働くようになり既に八年目に突入しています。この業界では十五年目です。福祉の世界に入るきっかけとなったのは、本当に偶然だったと思います。それは別府にある「太陽の家」の組織の一部として大分銀行が出店している「太陽の家支店」に在籍していたことから、福祉のつながりにより重症児施設への出向を打診されたことに端を発しているのだと思います。

平成十七年の七月に出向しましたが、その翌年に障害者自立支援法（当時）の施行があり、制度の変わり目の最初から重症児施策の変化を厚生労働省の室長や専門官から話を聞く機会を持つことができました。さらに通園事業を主として担当する時期に児童福祉法の改正がなされたので、この際にも直接、厚生労働省の専門官に質問をぶつける機会をいただけました。この十五年間は制度が大きく動く時期でした。

ではこの先十五年はどうでしょうか。今の厚労省の動きを見ると、障害児・者に対しての動きは遅くゆっくりとですが、確実に網の目を細くして漏れないように拾い上げていこうとする姿勢は見えるように思います。自民党の野田前総務大臣がお子さんの障がいと契機として障がい児・者の処遇改善を求めたり、今回の参議院選挙では、難病患者本人が国政の場である国会で直接意見を発表することとなります。社会を変えるきっかけになるのではないで

しょうか。

少子高齢化社会で子供の数は減ってきたけれど、医療の進歩により以前なら助からなかった命が救えるようになりました。しかし障がいが残る子供が増えていることも事実だと思います。重症児者の施設での受け入れ人数はどうでしょうか、家庭で受け入れる人数が増えて、施設では超・準超重症児の受け入れが中心になるのではないのでしょうか。では成人の場合はどうでしょうか。家庭で世話をしてきた両親は当然高齢化し、重症者は施設への移行が必要になります。現在の厚労省の方向性としては、介護サービス事業所が共生型障害福祉サービスの指定を受けることで障害福祉サービスを実施できます。

全ての人にとって優しい社会になるよう、政治はゆっくりとしかし着実に進んでいると思います。私もこの七月から事務部長として恵の聖母の家の将来設計の一部を担うことになりました。どうぞよろしくお願いたします。



医局



退職のご挨拶

内科医 田中 達三郎

此の度、恵の聖母の家の非常勤を辞することになりました。これ迄、十一年間、大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。特に有り難かったのは、私を老人扱いすることなく、普通に接していただいたことです。佐賀弁の「ヨカヨカ」の言葉も笑われましたが、私には大分弁の「しんけん」の方がおかしいと思います。今後は年老いた純天然の奥さんと孫の成長を楽しみに暮らして参ります。

最近のことですが、佐賀に帰る時、バス停迄送っていただいたのですが、急に大雨

となり、軒下に立っていましたら、年輩の男性が車から降りて、「自分の傘をどうぞあげます」と差し出されました。本当に助かりました。濡れてバスに乗ると、冷房で風邪をひくところでした。そして、日頃自分には親切にした覚えがないので、恥ずかしく思いました。

八月からは恵の聖母の家の労働安全委員会と潔き聖母の家の衛生委員会に出席するため、一日だけ出て参ります。よろしくお願致します。



<労働安全衛生委員会にて>



<園内研修にて>



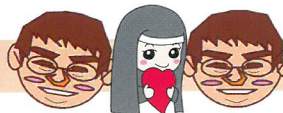
<しずか号と>



<運動会にて>



<運動会でエイエイオー！>



訓練課



子どもの成長に携わりたい

作業療法士 吉田 知佳

学生の時、授業で発達分野について学び、「子どもの成長に携わりたい」と思い、作業療法士免許を取得し、恵の聖母の家に就職して二年目になりました。毎日新しい経験や学びがあり、楽しく業務に励んでいます。

一年目を振り返ると、昨年の春に専門学校を卒業して新社会人となり、「働くこと」の大変さ・学生と社会人の違いに戸惑うこともありました。しかし、深く考える暇もなく、どんどん増えていく外来利用者の担当や、施設支援等、外に一人で行く業務、そして書類にも追われて…。毎日が嵐のようでした。仕事が終わりに、家に帰ってからいつ寝たのかわからないことや、なぜか靴下を二重(仕事用と私服用)に履いて帰っていることなど、疲れてたんだろなと思うエピソードはたくさんあります。しかし、「つらい」と思ったことはなく、仕事の楽しさ・おもしろさを、毎日のように感じる日々です。

就職してこれまでに一年半、約五十人の子どもたちと出会いました。個性あふれ、純粋な子どもたちから学ぶことは数えきれないほどあります。できなかったことができようになること、それが自信になって次のステップに挑戦しようとする子どもたちの姿を目の前でみて、「子どもの成長の素晴らしさ」を強く感じ、そのことが私自身の元気の源・仕事の励みの一つになっています。



「子どもの成長に携わりたい」とその思い通り、やりたいことを仕事にしていることは幸せなことです。しかし、時に自分の訓練が本当にこの子たちのためになっているのか・視点や思考が足りず、自分の提供する作業療法に悔しさを感じたことも多くあります。そんな時、親身になってアドバイスをくれる経験豊富な先輩方がいます。これまで先輩方の言葉に救われたことが何度もあります。私にとって先輩方は大きな存在であり、大きな支えです。これからも先輩方にはたくさん頼らせてもらいたいと思っています。そしてその分、今度は自分が先輩の支えになっていきたいと思っています。

今後も初心を忘れず、今よりもっともっとスキルアップし、自分の思い描いている作業療法士になれるように日々努力していきます。

生活福祉課



四十歳からの習い事

保育士 松本 智子

恵の聖母の家で保育士として働き始めて二年目を迎えています。恵の聖母の家の保育士の役割りの一つに、食事の前や全体朝礼の時に歌う聖歌の伴奏があります。私はピアノを習うのが、幼い頃の夢でした。しかし、幼い頃は家が経済的に厳しかったのでピアノを習うことができませんでした。が、「いつかは習いたい」という気持ちはずっと持っていました。

そんな私がピアノを習うことができるようになったのは、子育てが一段落し、十四年ぶりに働くようになった、四十歳の時でした。初めてのレッスンの日のことを今でも覚えています。その日は雨の日でしたが、まるで子どものように心が躍るほどワクワクしながら行きました。

それから週一回、三十分のレッスンを受けて六年が経ちます。子どもと違って頭も指もかたいので上達はゆっくりですが、この間に保育士試験にもチャレンジしました。苦戦しましたが合格することができ、保育士として現在、恵の聖母の家で働けるようになりました。

それでも、遅くにピアノを習い始めたので、職場で最初の頃は、緊張して、途中で弾けなくなることも度々ありました。しかし、そんな私が弾くピアノでも、利用者や職場の皆さんが歌ってくれるのが嬉しくて、「皆さんのためにも、ピアノがもっと上手になりたい」という気持ちにさせてくれました。



四十歳からの習い事で始めたピアノは私を新たな道へと導いてくれました。少しでも練習を重ねて、先日の童謡コンサートで先生がピアノを弾いたように、童謡等、いろいろな曲が弾けるようになって、そして利用者の皆さんに、楽しく聴いてもらえるようになりたいです。

5月23日 防災訓練

臼杵市消防署・野津分署の署員立ち合いのもと、入所利用者を対象に施設内の火災発生を想定した防災訓練を行いました。訓練後、消防署から、出火場所への対応、避難誘導、確認の点呼等に関して評価をいただきました。野津分署署長さまの「訓練に勝る備えなし」の言葉を大事に、これからも安全を考えて安心につなげていきたいと思ひます。



5月30日～5月31日

令和元年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

5月30日から5月31日まで、茨城県水戸市の水戸プラザホテルで開かれました。大会では、永年に亘って重症心身障害児者に尽力された職員の永年勤続者表彰式並びに協会認定重症心身障害看護師認定証授与式も行われました。当施設からは10年表彰に代表1名、そして1名が協会認定重症心身障害看護師認定証を受けました。今回は“成人期の諸問題”や“アドバンス・ケア・プランニング”についてのお話もありました。地域や制度に目を向け、関係機関との連携の大切さを強く感じる内容でした。



6月15日 第36回 恵の聖母の家 ふれあい運動会

今年は、「令和元年、元気100%で頑張ろう!!」(入所利用者作)をテーマに行いました。競技は、今年、日本で開かれる「ラグビーワールドカップ」にちなんだもの、スライムを倒す人気ゲームをもとにしたもの等がありました。入所者、通所利用者自身ができるように工夫され、選手も会場も笑顔が多くみられました。今年の優勝は紅組でした。今回もボランティアとして、野津中学校、臼杵高校ユニセフ部、大分南高等学校、藤華医療専門学校(看護科、リハビリテーション科)の皆さんが来てくれました。ありがとうございました。



6月27日 童謡ボランティアコンサート 病棟ホール

大分県立芸術短期大学音楽科声楽専攻を経て、大分県民オペラ等で活躍されている永見彩子さまの童謡ボランティアコンサートが病棟ホールで開かれました。詳しくは「きらりん」(2頁)をご覧ください。



7月20日 ボランティア公演 地域交流ホーム

県内のイベント会場でも公演を行っている別府大学短期大学部劇団スマイリーの人形劇が、今年も恵の聖母の家で開かれました。今回は、コップを使ったカップス、そしてスマイリーの歌、人形劇は「子やぎとオオカミ」「ちくちく、ぬいぬい、ワンピース」でした。人形が会場のお客さんとボールを使って遊んだり、みるだけでなく、楽しく参加できる内容でした。また、スマイリーの皆さんからは、手作りのメダルをいただきました。ありがとうございました。



4月22日～4月26日、5月7日～5月10日 看護実習

今年7月に医療型特定短期入所の事業開設を計画している、社会医療法人関東会 坂ノ市病院さまから「在宅で過ごされている人工呼吸器管理が必要な重症心身障害児(者)のケア」について実習の相談があり、4月22日から4月26日までを病棟実習、5月7日から5月10日までを児童発達支援センターめぐみで、看護師2名が実習しました。「気管切開の方のケアの方法や人工呼吸器管理について勉強になった」「通所では色々な活動が行われていることがわかった」等、たくさんの感想をいただきました。



5月9日 全体研修 医療安全

全職員対象に、「医療安全」と「今後のインシデント報告方法」について研修を行いました。前半は、医療安全の「概念」「ヒューマンエラーの12分類」について説明し、「だまし絵」を用いて、職員自身で錯覚や思い込みの強さを感じてもらいました。インシデント報告の大切さについては、当施設の過去5年間のアクシデント報告と照らし合わせて説明しました。インシデント報告は、報告者自身が用紙に記入する方法からパソコンに直接入力する方法へ変更となるため、テーブルにパソコンを用意し、インシデント事例の入力を練習しました。



5月20日 看護実習オリエンテーション

6月から始まる藤華医療専門学校の看護実習に先立って、看護科3年生の皆さんに実習オリエンテーションを行いました。実習の目的は、障がい児・者施設実習として、「障がい児・者の成長発達を理解し、尊厳を守り、安全で充実した日々を過ごすための看護師の役割と他職種との連携を学ぶ」です。2階会議室で看護師長が説明を行い、その後、病棟見学を行いました。

5月23日～5月24日 早期体験実習

5月23日から5月24日まで、大分大学福祉健康科学部1年生4名が病棟と児童発達支援センターめぐみでそれぞれ早期体験実習を行いました。これは、大分大学福祉健康科学部のカリキュラムの一つで、「臨床場面に赴き、机上の学問にとどまらず、実践に根差した実学のカリキュラムを展開すること」を目的としています。学生の皆さんは、各場面で利用者とはよく関わり、感じたことをスタッフに質問し、自分の考えをまとめていました。



5月23日 臼杵石仏 3名

出発する時、緊張のためか、表情が硬かった人も、到着後は、陽の光やお香が漂うのかな雰囲気になんか表情を見せていました。ご家族からの声かけに笑顔になり、散策中はよく周囲を見て、声を出して笑う参加者もいました。緑の風景や大きな石仏、羽を休めるつばめを穏やかな表情でみている参加者もいて、穏やかな気持ちで楽しく過ごせました。



5月30日 臼杵石仏 4名

皆で石仏群を車椅子でゆっくりまわりました。ご家族に会うと、目をよく動かして喜んで、ご両親の声かけがあると閉じていた目を開けて応じる参加者もいました。日頃、緊張の強い人も展望台からの景色に、気持ち良さそうにしていました。風が吹いたり、線香の香りが漂う環境に皆、リラックスしていました。静かな環境の中で自然を楽しみました。



6月20日 道の駅きよかわ 3名

隣町の豊後大野市でお食事処もある道の駅きよかわに出かけました。参加者の一人はご家族が準備した食べ物を喜んで食べたり、販売している桃ソフトの最初の一口に「冷たい!」と驚いた表情を見せたり、参加者それぞれ、ご家族と楽しい時間を過ごしました。



7月4日 マルショク臼杵店 4名

主に日常生活で使ったり、楽しんだりする物を買いに市内のスーパーに出かけました。参加者の一人は、朝、活動について声かけされると笑顔を見せて、お出かけを楽しみにしていた様子でした。買物では、参加者は支援者に「これが良い」と商品を指さして、マットレスや衣類等を選んで購入していました。参加者の一人はレジで店員さんにお金を渡して、お釣りもしっかりと受け取っていましたが、「店員さんの顔が良い」と身ぶり手ぶりで支援者に伝えていました。買い物を通して地域の人と関わりもでき、有意義な時間となりました。



7月18日 パークプレイス大分 5名

大分市にある大型複合商業施設に出かけて、買物や食事を楽しんできました。現地まで待ち合わせたご家族と合流すると、参加者の多くに笑顔がみられました。ショッピングでは、衣類や化粧品店の前で立ち止まり、店内の装飾や香りに関心を示す参加者やゲームコーナーの近くで、よく目を開けて、音に関心を示す参加者もいました。また、ご家族が商品を示して、気に入ったものには声をあげて伝える参加者もいました。昼食はレストランでとり、オムライス等を美味しくいただきました。ご家族と買い物や食事を通して、楽しい時間が過ごせました。



4月11日 リバーパーク犬飼 6名

遊具や芝生が広がるリバーパーク犬飼で、オリエンテーリングや散策を通して自然を楽しむ活動をしました。参加者の一人は朝から口笛を吹いて、出発を楽しみにしていました。また、車から降りるとニコッと笑顔を見せて、そばにいる支援者の手をとって気持ち良さそうにしている人もいました。鳥の鳴き声や風に、気持ち良くしていた人、風が少し冷たい季節でしたが、顔に感じる度に目を動かしたり、持っていたタオルを繰り返し触ったりして、気持ちが良い様子を見せていました。オリエンテーリングでは、クイズの問いかけに笑顔を見せたり、風を受けて声を出して笑ったり…。自然を通して、楽しい時間が過ごせました。



4月25日 臼杵石仏 5名

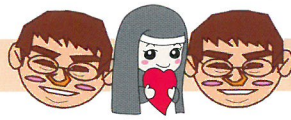
臼杵市郊外にある、国宝臼杵石仏に散策に行きました。行きの車内では、多くの参加者が外に目を向け、関心を寄せていました。到着後は、車いすで散策しました。観覧コースを上がったり下りたりして、磨崖仏を見学しました。砂利道になると車いすが揺れましたが、参加者にとっては心地良い刺激になり、気持ち良さそうにしていました。石仏にもよく目を向けていて、竹林の新芽やせんべいを焼く香りを楽しんだり、展望台からの景色に、深呼吸をしたり、鳥のさえずりに声を出して喜んでいました。支援者の手をとって笑顔を見せる人もいて、自然を通して楽しい時間を過ごしました。



5月16日 佐野植物公園 5名

広々とした公園の中に植物園がある佐野植物公園に行ってきました。ドライブが好きな参加者の一人は、車内で声をあげてよく笑っていて、到着後は、自分で車椅子を動かして、自分のペースで散策を楽しんでいました。その他の参加者も、ご家族持参のサンドイッチを喜んで、バス等、目に入るもの名前を言って楽しんでいました。中には、3歳から5歳くらいの年齢の子どもたちが遊ぶ様子を見守るように眺めている参加者もいました。植物園内では、水の音や鳥の鳴き声に笑顔を見せる参加者も多く、自然や音を通して、楽しい時間を過ごしました。





児童発達支援センターめぐみ

でびびり

◆四月

◇お花見

二〇一九年度が始まったセンターめぐみの最初の日、正門前の桜の木が満開だったので、皆で散策に出かけました。気候も良く、絶好のお花見日和で、参加した方も気持ち良さそうにのんびりと寛ぐことができました。

◇新しい仲間たち

四月から生活介護（男性一名）、放課後等デイサービス（男性一名）が児童発達支援センターめぐみの仲間として、新しく利用するようになりました。一日も早く新しい環境に慣れて、楽しい日々を過ごせるように支援させていただきます。

◇感覚遊び

作業療法士による感覚遊びを初めて行いました。「スライム・小豆・カラーセロハン」などを使って、今までとは違う内容で感覚遊びを行いました。スライムの感触や小豆の手触りを感じてか、笑顔や発声などいろいろな表情、表現をみせてくれました。また感触以外にも小豆



<どんな感じかな？>

の音に敏感に反応する方もいて普段とは違う一面が見られました。

◆五月

◇令和記念写真

元号が平成から令和になりました。散策を兼ね利用児者と一緒に、令和記念写真を撮りに出かけました。皆さんにとってよき時代となりますように！！



<令和も良い年に>

◆六月

◇ふれあい運動会

今年のセンターめぐみ・外来競技は、昨年のキャラクターシリーズの第二弾として「めぐみんクエスト」としました。カードをめくり、出た絵柄のアイテムを手にし、スライムを討伐するという競技内容でした。ラッキーなアイテムを手にし、スライムを簡単に倒せた方、思うようなアイテムが取れずにスライムを何度も何度も叩く方など、限られた時間ではありましたが、楽しいひと時を過ごすことができました。閉会式では生活介護の通所利用者が支援者

と一緒に巻き物のヒモを上手に引いておわりの言葉を文字で表し、楽しかった会を締めくくってくれました。

◆七月

◇七夕飾りつけ

七月七日の七夕を前にセンターめぐみでは、七夕の飾りつけをしました。大分トリニータの試合を見に行きたい、体重が気になるのでダイエット、美味しいものがたくさん食べたい、健康第一で過ごしたい、かわい実習生がきますように、など、通所利用児者とご家族の願いを短冊にこめました。皆さんの願いが叶いますように！！

児童発達支援管理責任者 竹尾昭彦



<スライムをやっつけよう！>

ゴーヤのお話

用務より

スタッフから

毎年夏になると、一般外来の待合室前には、緑のカーテンが登場します。ゴーヤのカーテンです。ゴーヤのカーテンは、蔓を高く伸ばし、たくさん葉が陽射しを遮り、廊下の温度を下げてくれます。また、苗を植える場所は土壌が良いのか、しばらくするとたくさんの実をつけてくれます。収穫したゴーヤはかごに入れて、来る人に持って帰ってもらっています。今年五月十五日に苗を二十五本植えました。「今年は何本できるかな？」と想って、収穫の際、数を数えてみることにしました。当初、二百かな、三百かなと思っていたのですが、八月上旬には三百本を超えて、下旬になってもまだまだ実をつけていきます。凄く野菜だと驚くばかりです。八月は病棟の夕食に「ゴーヤの佃煮」が加わり、入所利用者さんに食べていただきました。また、今年一つ一つの取り組みとして、貯金箱を用意しました。来年の栽培を考え、持って帰られる方に、「志し」をお願いすることにしました。今回植えた二十五本の苗の購入費は六千円でした。「同じくらい集まれば、来年はそれで栽培することができると」思っていたのですが、「志し」はかなりの金額になりました。ゴーヤの種も来年のためにとっているのです。次年度は費用を抑えて栽培できそうです。「志し」にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。今回の用務の取り組みは、機会があれば、皆さまにご報告したいと思っています。この場をおかりしてお礼申し上げます。



看護課

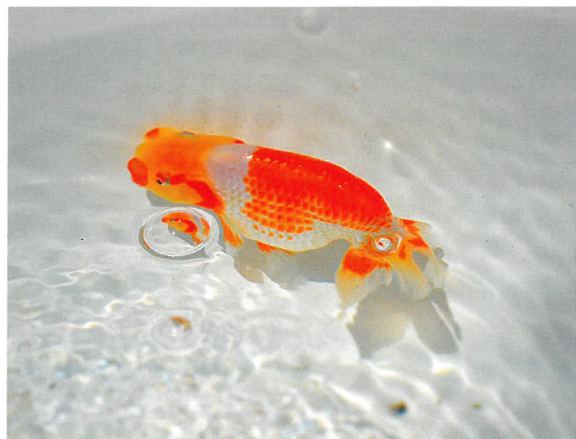


私の趣味 観賞魚の世界

看護主任 赤嶺 嘉洋

私の趣味が観賞魚の飼育になったのは、結婚して地元野津に帰ってきてからでした。もともと学生時代に緑日の金魚すくいにとった金魚を飼った経験もあって、金魚を飼いはじめました。金魚は熱帯魚ショップから買いますが、金魚の種類が多いことにビックリしました。最初は、緑日やホームセンターでもよく見るミックス金魚や流金を飼育していましたが、いろいろな種類の金魚も飼ってみたくなり、チャレンジしていきました。そして金魚の次は熱帯魚の飼育にもチャレンジしました。メダカからアロアナなどの淡水魚やニモヤドリーなど有名な海水魚にもチャレンジしています。なかなか身近に魚好きがいないので、観賞魚の中から、私が一番好きな金魚の世界を皆さんに少し知ってもらえたら嬉しいです。

野津にらんちゅうを販売している場所があったこと、そこに通い詰める中でらんちゅうの愛好家と出会ったからです。毎年、愛好家の方かららんちゅうの子どもを譲っていただき、大きく育てる技を学んでいます。最近、やっと一年間、元気に飼育できるようになりました。まだまだ、経験不足なので目標としているらんちゅうには届きませんが、これからも試行錯誤し、経験を積んでいきたいと思います。また、観賞魚のための飼育小屋を、「いつか我が家の敷地内に、D-I-Yで作りたい」と今から構想しています。今後、少しでも魚好きの方が増えることを願っています。



児童発達 支援センター めぐみ



地域の仕事として

職員 成水 正秋

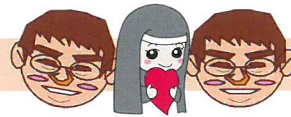
児童発達支援センターめぐみで送迎をしている成水です。会社を定年退職し、二年ほど過ぎた平成二十八年一月十日にセンター業務に就いて三年目になります。八時と十五時にしずか号やひかり号等で、佐伯市や津久見市、臼杵市や竹田市と、広い範囲を生活介護の利用者の送迎で廻っています。恵の聖母の家の仕事をすきかけは、前回のルルドの丘で「一言」を書いていた、甲斐さんの紹介になります。私は野津町に住んでいるので、障がい者の施設があるということを知っていましたが、センターの仕事に関わって、初めて施設にきました。広々として、良いところだなあと感じています。

かったです。そういう仕事を十五年ほど行いました。この会社は株式会社で、九州や大分、宮崎の川南、高崎、鹿児島と九州を中心としたわりと大きな会社です。そういった仕事を合せて三十年行い、少し休んで、今、恵の聖母の家の児童発達支援センターに来ています。

以前の仕事は、物づくりの仕事でした。当時、大分では珍しかった製鉄所の仕事で、十九歳の時に新日鉄に入り、クレーンの免許、二十四歳の時に大型自動車の免許を取りました。そして、輸出される鉄鋼を、岸壁に設置してあるクレーンで大型船に積み込む仕事をしていました。鉄鋼は二十トン、三十トンあります。マグネットで固定されていますが、外れたら落下し、けが人が出る大きな事故につながります。油断をせずに励んだせいか、事故は起こさずに勤めることができました。その後、関連会社で擁壁を作る会社に向となりました。擁壁は主に災害を防止したりするもので、大きなものは七メートルを超すものもあります。製造はひとりで行うため、より責任を伴った仕事でした。一つ作るのに四時間か

私生活では、交通指導員を十五年、地域交通安全推進委員を四年させていただいています。前者は交通安全協会から推薦をいただき、後者も推薦になります。活動内容は、交通安全運動推進期間の児童の通学の見守りや交通安全の啓発になります。そういったこともさせていただいているので、センターめぐみの送迎も、安全運転を心がけています。通所利用者さんには、主に送迎で関わることになりませんが、気持ち良く挨拶をしてくれたり、気持ちが良いと言いますか、送迎の中で、普段見せない笑顔が見られたり、声を出してくれたり…。そんな時の表情はとても良くて、こちらも気持ち良くさせていただいています。先日は通所利用者さんとスタッフが「交通安全のお守り」を作ってくれました。とても嬉しく、ありがたく思っています。





保護者の皆様から



短期入所を利用して

我が家の三女は重度身体障がい児です。3歳から、恵の聖母の家のショートステイを利用して15年が経ちます。「3歳では早いのでは？」と思いましたが、私の祖母の葬儀中に三女が体調不良となり、私が最後まで参列することができなかつたことがきっかけでした。そのようなことがあったため、ショートステイ利用のための診察を受けました。契約が完了し、一安心。「そのうちに一度利用してみよう」と思っていたのですが、「この子が無事に一泊できるだろうか」「うちの子を職員の方がちゃんとみってくれるだろうか…」等、そういう思いが頭をよぎって、利用にはなかなか踏み切れませんでした。

そんな矢先、主人の祖父が急死し、葬儀に向かうこととなりました。三女は、まだショートステイのお試し利用をしていませんでしたが、思い切って担当の職員さんに相談させて頂きました。すると、急な利用の申し出にも関わらず、快諾を頂きました。また心強かったのは、主人が野津出身で、葬儀のことをご存知の職員さんがおられたことでした。三女はショートステイ利用中、体

調を崩すこともありましたが、ケアをしっかりと頂き、私と家族は、滞りなく最後まで葬儀に参列できました。施設からの連絡も、職員さんが連絡する時間を考慮して下さい、その点も助かりました。利用事情により、臨機応変に対応して頂いたと感謝しています。また一方で、契約後、すぐにお試しを実施しておけば良かったという反省もしました。いつ何があるか、わからないものです。

現在は必ずお試し利用を経てからになっています。1回目が保護者付き添いで半日利用、2回目が保護者は少し離れたところにおいて本人だけの半日利用、そして良ければ一泊利用となります。これは、『宿泊』という、家とは違う環境になった時に、利用者が体調を崩すことがあるためです。施設側も、①職員に利用児を觀てもらおう②利用児の特徴をおさえてもらう③利用児本人に施設の雰囲気をつかんでもらう…ためと聞いております。三女の場合は、急なお願いで受けて頂いたのですが、当時は三女のことを伝えるのに、私がやってみせたり、文面で説明したりと大変でした。今は画像やipad等で職員さんにかなり伝えやすくなりました。時代を感じますね…。就学前になかなかミキサー食を口にしない三女に困っていましたが、ショートステイで職員さんが根気よく摂食介助をして頂き、今に至っています。これは本当にありがたかったです。当時の職員さんにお礼が言いたい次第です。ありがとうございました。ショートステイ利用希望が多い中、調整して頂きながら、定期的に利用させて頂ける環境を今後ともよろしくお祈りします。

(大分市のママ)

支援学校訪問教室



ザ・ボウサイズ誕生!!

～合言葉は「備えあれば うれいなし」～

大分県立臼杵支援学校 訪問担当者

突然ですが、「防災教育」と聞くと、どのようなイメージですか？

本校は今年度文部科学省の指定を受けて、『児童生徒が想定される災害や危機に際して安全に行動できる力を育てる』を目標に、「命を守る防災教育」に取り組んでいます。多くの専門家の方々からは、取り組みの具体的な内容や方法について、多くのアドバイスをいただいています。その中で、「楽しく防災教育に取り組んでください」という言葉をたくさんいただきました。

そこで、本校では、防災に必要な知識を持つヒーローを設定し、一緒に活動することにしました。その名も『ザ・ボウサイズ』!! ヒーローは、ボウサA～Eの全部で5人。ボウサAは、『避難行動の達人エース (Ace)』ボウサBは、『非常用持ち出し袋 (Bukuro) の専門家』ボウサCは、『コープ (Co・op) などのお店で非常食を買いそろえます』ボウサDは、『リビング・ダイニング (Dining) のような避難所生活を提案』します。ボウサEは、『ボウサE (ぼうさい)。地球 (Earth) のEでもあるチームのリーダー』です。

6月の全校集会では、ボウサBが登場し、一緒に備蓄庫の整理

をしました。また、夏休みには『ザ・ボウサイズ』から『備えあれば うれいなし』を1週間に1回、言いましょう』等の宿題も出しました。

訪問学級の児童生徒の取り組みはこれからです。『ザ・ボウサイズ』と共に、“楽しく”防災教育に取り組んでいきたいと思えます。ご協力よろしくお祈りします。

臼杵支援学校防災オリジナルキャラクター

ザ・ボウサイズ

●プロフィール

(①～⑤)

- ① 2019年（令和元年）結成
- ② 臼杵市を拠点に活動する防災のプロ中のプロ
- ③ 防災のことにとてもくわしくいつも防災のことを考えている
- ④ 地球のことがとても好き（災害があってもやっぱり住むなら地球が1番）
- ⑤ あいことば「備えあれば憂いなし」（意味：ふだんから準備をしておけば、いざというとき、何も心配がない）



★ぴかぴかぴかぴかぴかぴか★

新しく入られたスタッフをご紹介します。①お名前 ②職種 ③お住まい ④趣味 ⑤一言



①金澤優菜(かなざわ ゆな)さん ②作業療法士
③大分市 ④好きなアーティストのコンサートに行く
ことです。⑤不安なこともあります、一生懸命頑
張ります。よろしくお願いします!



①角井春菜(かくい はるな)さん ②管理栄養士
③大分市 ④映画、コーヒー♡ ⑤新たな気持ちで
頑張ります。



①川野大輔(かわの だいすけ)さん ②介護福祉士
③臼杵市 ④運動です。球技が好きです。⑤一つ
ひとつ、色々と学んでいきたいと思ひます。



①赤峯康一郎(あかみね こういちろう)さん ②看護
師 ③大分市 ④ゴルフと同僚に誘われて始めた山
登りです。先日、鶴見岳に登りました。きつかったで
すが、達成感がありました。⑤わからないこともあり、
ご迷惑をかけると思ひますが、よろしくお願いします。



①首藤実央(しゅとう まみ)さん ②介護福祉士
③臼杵市 ④子どもたちが喜び、休みの日にチョコ
チップクッキーを作ることです。⑤福祉の学校を
卒業後、子育てのため、しばらく現場を離れていた
ので、少し不安もありますが、よろしくお願いします。



①八屋裕三恵(たかや ゆみえ)さん ②准看護師
③大分市 ④好きなことはアロマやハーブティのお
店に行くことです。⑤まだまだ分からないことばか
りですが、先輩方から教わったことができるように張
りたいです。



①原和宏(はら かずひろ)さん ②介護福祉士
③臼杵市 ④身体を動かすこと。特にサッカーとフ
ットサルが好きです。他に映画を観ること。最近
は歳をとったせいか、感動すると涙を流してしま
います。⑤40歳の新人ということで、扱いにく
いところがあるかもしれませんが、利用者さまの
為にここで頑張りたいと思ひますので、よろし
くお願いします。



①首藤あずさ(しゅとう あずさ)さん ②作業療法
士 ③大分市 ④買い物です。⑤毎日が勉強の
日々で、色々な方から支えてもらいながら仕事
をしています。今できることを精一杯行いなが
ら、これからも利用者さん達と関わっていきたい
と思ひます。どうぞよろしくお願いします。

人事

昇格

七月一日付

森 幸一(事務部長)

資格取得者

四月一日付

竹尾 志穂(看護師)

後藤 信也(介護福祉士)

多々良美幸(調理師)

職種変更

四月一日付

齊藤 昌美(看護助手)

新規採用

四月一日付

管理栄養士 角井 春菜

看護師 赤峯康一郎

准看護師 高屋裕三恵

作業療法士 首藤あずさ

介護福祉士 金澤 優菜

川野 大輔

首藤 実央

原 和宏

姫野 初美

退職

五月三十一日付

看護助手 大津留佳恵

六月三十日付

事務長 松浦紳一郎

看護師 藤北 真弓

看護助手 長野 直美

七月三十一日付

医師 田中達二郎

八月十五日付

看護助手 川野 詠子

非常勤勤務

七月一日付

松浦紳一郎(参与)

八月一日付

医師 田中達二郎

おたより

ルルドの丘のご感想をいただき
ました。ありがとうございます。
今後の参考にさせていただきます。
ます。



四十四号は知っている職員さん
が書いていて、その方の考え
方を感じさせてもらいました。
広報誌には恵の聖母の家の取り
組みなどを書いているコーナー
もありますが、全てがそうでは
なく、職員さんが生活で感じる
こと、身近なこと、職員さんの
過し方もあります。利用する側
としては、そのような記事を読
むと、その人の人となりがあ
って、安心につながります。
今は半頁に一人が書かれていま
すね。

恵は病棟間の異動もありま
す。短期入所であってくださ
いた職員さんが別な病棟に移
たり、逆に初めて接する職員さ
んがいたり。利用者として
は、それぞれの職員さんがど
んな人かを知ることができれば
安心なので、広報誌で、一頁に
職員さんが五人くらい、自由に
書いてくれたら、そう思ったり
しています。ちょっと考えてく
れたら嬉しいです。

(大分市のママさん)



◇各ご連絡・ご相談先

発達外来(初診受付) …0974-32-7778	児童発達支援センターめぐみ…0974-32-7784 保育所等訪問支援・児童発達支援・放課後等デイ・生活介護
相談支援事業所…0974-32-7788	訪問看護あんな・地域連携室…0974-32-7667
外来保育きつず…0974-32-7778	恵の聖母の家(代表) …0974-32-7770

行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ㊦…個別面談
 ㊧…権利擁護・虐待防止部会 ㊨…全体朝礼 ㊩…労働安全衛生委員会
 ㊪…リスクマネジメント部会 ㊫…入浴日

2019年9月			10月			11月			12月		
1	日		1	火	㊨	1	金	㊫	1	日	
2	月	㊫	2	水	㊫	2	土		2	月	㊫
3	火	㊨	3	木	㊧	3	日		3	火	㊨
4	水	㊫	4	金	㊫	4	月		4	水	㊫
5	木	㊧	5	土		5	火	㊨ ㊫	5	木	㊧
6	金	㊫	6	日		6	水	㊩ ㊫	6	金	㊫
7	土		7	月	㊫	7	木	㊧	7	土	
8	日		8	火	㊩ ㊪	8	金	㊫	8	日	
9	月	㊫	9	水	㊫	9	土		9	月	㊫
10	火	㊩ ㊪	10	木	白柁マルシヨク	10	日		10	火	㊩
11	水	㊫	11	金	㊫	11	月	㊫	11	水	㊫
12	木		12	土		12	火	㊩	12	木	
13	金	㊫	13	日		13	水	㊫	13	金	㊫
14	土	家族の日ファミリーフェスティバル	14	月		14	木		14	土	クリスマスの集い
15	日		15	火	㊩ ㊫	15	金	㊫	15	日	
16	月	㊫	16	水	室内活動	16	土		16	月	㊫
17	火	㊩	17	木	㊪ パークプレイス大分	17	日		17	火	㊩
18	水	㊫	18	金	㊫	18	月	㊫	18	水	㊪ ㊫
19	木	㊪ パークプレイス大分	19	土		19	火	㊩	19	木	㊪ もちつき
20	金	㊫	20	日	檜の実コンサート	20	水	㊫	20	金	㊫
21	土		21	月	㊫	21	木	㊪	21	土	
22	日		22	火		22	金	㊫	22	日	
23	月	㊫	23	水	㊫	23	土		23	月	㊫
24	火	㊩ ㊦	24	木		24	日		24	火	サンタプレゼント ㊦
25	水	㊫	25	金	㊫	25	月	㊫	25	水	クリスマスミサ ㊫
26	木	白柁HIヒロセ	26	土		26	火	㊩ ㊦	26	木	
27	金	㊫	27	日		27	水	㊫	27	金	㊫
28	土		28	月	㊫	28	木		28	土	
29	日		29	火	㊩ ㊦	29	金	㊫	29	日	
30	月	㊫	30	水	㊫	30	土		30	月	㊫
			31	木					31	火	

※予定変更の場合があります。 ※関係者の同意のもと、写真を掲載しております。

編集後記

いよいよ、ラグビーワールドカップが日本で開かれます。大分県でも5試合が組まれています。世界ランキング1位のニュージーランドも大分で試合を行います。日本開催は“一生に一度”と言われてはいますが、スポーツの祭典を楽しみたいところですね。また、来年はいよいよ東京オリンピック、パラリンピックが開かれます。明るい話題が続きますね。亥年もあとわずか。良き時間が過ごせますように…☆ (S.M)